

## 第22期運営委員立候補声明

實川 幹朗

当学会は、存亡の危機にあります。それも、持続的な危機です。長年にわたり顔ぶれの固定した運営委員たちが、馴れ合いと公私混同の学会運営を行ない、内外の信用を失ってきました。新たな発想での活動はたいへんしにくい雰囲気、作られています。このため会員は最近まで、減少の一途をたどってきたのです。

当学会は、近代心理学と精神医学の管理主義、収益主義と一線を画し、多様な生き様の共存をめざす貴重な理念を掲げてきました。しかしながら、馴れ合いと公私混同は理念の実質を薄め、世の中の流れにそぐわない硬直化をも招いてきました。

例えば、「する側」と「される側」を固定して捉え、「される側」に立つと宣言することで、自分たちの存在意義を示す姿勢です。こうした対立関係による批判は、状況によって有意義であり得ますし、かつてはそうでした。しかしながら、この対立の固定は「される側」の固定ともなります。「される側」に立つと称する人びとが、固定した対立に寄生するのです。

じっさい、当学会の最近の動きも、この仕組みを体現しています。すなわち、「される側」に立つと言いながら、利益を求めて国家の権力体制に入り込もうとしてきました。現在の精神医療体制のもとで地位を得ようと謀れば、理念の空洞化、虚像化が進んでゆきます。嘘を以て接するほど、心を病む人を傷つける仕業はありません。

この学会の実績を活かし、尊い理念に新たな息吹きを吹き込むには、これまでの「心理学」の枠に捉われていては叶いません。近代心理学の相対化なくして、会則の求める「真の臨床心理学」は作り上げられません。

私は、新鮮な志を抱いて入会された会員とともに、この学会を建て替え直すべく、日本臨床心理学会第22期運営委員に立候補致します。